

午後2時10分再開

○議長（中島秀樹君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、11番柴山恭子議員の質問を許可いたします。11番柴山恭子議員。

（11番柴山恭子君登壇）

○11番（柴山恭子君） 皆様こんにちは。久しぶりの一般質問です。私は市民の皆様の思いを受けとめ、それをどう執行部に伝えることができるのかということが役目だと思っています。執行部の心にどれだけ伝えられるかが私の役目でありますので、執行部の皆様、よろしくお願いいたします。

皆様のおかげで副議長として務めさせていただきましたこの2年間、視察や他の自治体の皆様との交流など、多くの研修を受けさせていただきました、感謝をしております。ありがとうございます。

中部十市正副議長会、熊本県益城町での災害視察では、町議会の皆様より多くの意見をいただき、体験談を聞かせていただきました。これこそこれからの地域の安心安全なまちづくりのためには、どうしても進めなければならない課題だと考えます。

まず、災害発生時、議員の行動マニュアルであり、連絡網であります。

しかし、これは既に朝倉市議会対応要綱案として検討されているものであり、多くの意見が集約され、まとめ上げられていくと思います。

益城町では、町が1.15メートル下がり、河川の水位の上昇に伴い、両岸には多くのトン袋の土のうが積まれておりました。

家屋に何の被害もなく、ただただ敷地全体がぼんと1メートルほど下がったために、寝てはいたが、地震にも気がつかなかったということもありました。

ただ、敷地全体が1メートル下がりますと、上部の道や周りの土地からの水の流れ込みが激しく、とても住める状態ではなかったそうです。

しかし、家屋の被害がないときに、補助金の対象にはならないと言ってありました。

先日、益城町に行きましたが、トン袋の土のうはまだ準備されており、なかなか大変なことだと思いました。自衛隊や警察などは、地の利がなく、地元民救出には消防団の活躍が目覚しく、24名を救出されたそうです。地域を知ることの大切さ、そして消防団の重要性を訴えられました。

議員は、各地区に張りつき、63の校区に仮設トイレを町議会に対応し、各公民館2基ずつ設置したということでした。

反省として、指定避難所へは情報が入ったが、その他のところへは届かず、平時より情報を末端までどう流すかが課題であり、地震が起きない町だと思われてきたのが災いしたので、今後は対策を考えるべきである。対策もただの対策ではなく、対策の役割分担が大事であること、どのような自主防災組織をどうやってつくっていくのかが重要であると、防災アドバイザーをしている議員の締めくくりでありました。

対岸の火事で済ませることはできません。今こそ本気で地域コミュニティの充実強化に取り組まなければなりません。朝倉市の安心安全、住んでよかった住みたいまちづくりをどう進めていくのか、これより質問席より質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

(11番柴山恭子君降壇)

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） まず、コミュニティの活性化についてお尋ねします。

各地域活動状況についてお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 各地域コミュニティ、各コミュニティで状況は違いますが、地域課題を認識し、その課題解決の取り組みを行ってある、どの地域もそれぞれの地域の特性に合った活動を行っているとは認識しております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） もっと具体的に、私に言わせてくださいね。まず、体育祭はこうということです。もう簡単なことですよ。17コミュニティのうち8カ所、夏祭りは9カ所、文化祭は14カ所、いろいろな事業が行われております。そういうことです。

それでは、このいろいろな事業に、地域づくりというのは、住民が顔を合わせ、多くの行事に参加することが住民のきずなづくりだと考えますが、今後のコミュニティの充実強化をどのようにして図られますか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） もちろん参加することは重要だと思っております。今後のコミュニティの充実ということにつきましては、住民同士の信頼関係とか共同意識が大変重要になってくると思っておりますので、日ごろ顔を合わせることが少ない住民同士のつながりをより努めることがコミュニティ活動の活性化につながると思っておりますので、先ほど議員おっしゃいました地域内交流のための取り組みであります夏祭り、文化祭、防災訓練等がそれぞれで行われておりますけれども、より多くの方に参加いただけるように、各コミュニティで発行されますコミュニティだよりとかホームページへの情報掲載、その他の方法を利用いたしまして、周知の努力をなされているところを支援していきたいと思っております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） それでは、周知の努力をなされていないところは、支援がないということでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） どの地域でも、そういう活動は行っておりますので、支援をしないということには当たらないと思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） そうですね。それは当たり前のことです。

それでは、どうすれば多くの住民が参加できるのでしょうか。さっきホームページ、その他は聞きましたので、そのほかのことでお答え願います。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 多くの参加をするためには、そのイベントなりやっておられますことが、魅力があるということが大変だろうと思いますので、魅力を高めるということが大事ではないかと思います。

魅力を高めるために、それとか人を集めるためには、どういう方々、例えば若者だけ集めるとか、全年齢を集めるとか、男女どうかとかいったターゲットを絞るというような方法も重要になってくるかと思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 若者、子ども、年寄り、男、女、いろんな人を集めなくては、地域のイベントでは人は集めることができません。

ちなみに立石では1,000人近くの子どもたちも集まっていますが、まだまだだと思っています。まだまだ努力が足りないと思ってます。どうすれば多くの住民が参加できるのか、ここが知りたい。どう私たちが頑張れば、多くの市民が参加することができるのかを知りたいのですが、部長、答弁をお願いします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） まず、そのイベント等をきちんと知らせるということが最初にあるかと思います。そのイベント等を知らせるということと、口コミで知らせるということが知れ渡りますので、そういったさまざまな方法を組み合わせまして、隅々までイベントの周知を図るということが重要ではないかと思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） その言葉を待っておりました。地域の隅々まで情報を知らせるということですね。じゃあ、一つあったことをお話します。杷木地区での小学校の運動会では、オフトークにかわり、地域放送で、「きょうは杷木最後の小学校の運動会です。皆さん、参加をお願いします」という放送が流れ、多くの住民が参加されたそうです。

すばらしい運動会だったと聞いております。どなたか参加されましたか、どうでしたか、新しく始まった地域放送は、有効ですか、すばらしかったですか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 市民環境部長。

○市民環境部長（養父英輔君） 杷木地域の職員でございますので、参加をさせていただきました。先ほどおっしゃられたように、地域放送でずっと流していただいて、あとは口コミといいますか、役員の方々が顔を見た方に必ず声をかける。そういったことで徹底したんじゃないかな。非常にありがたいなという感触を持たせていただきました。以上でこ

ざいます。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（森田俊介君） 私も4校とも行っておりますので、私からちょっと言わせていただきたいと思います。

柴山議員は地域放送があるけ多く参加したんじゃないかと。そういうふうに結論を持ってきたんだろうと思いますが、それもないとは言いません。しかし今回の場合は、やはり最後の小学校の運動会なんだと、来年は統合小学校で一つになりますので、その思いが地元住民に強くて、多くの方が参加されたんだと私も行っている方と話すと、そういう話が返ってまいりました。そういうことだろうと思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） そうです。住民の熱い思い、そして熱い思いをどう伝えるか、そして地域放送が流されたことは、最後の運動会です、どうぞ参加してくださいという、この思いは、住民の一人一人の心に伝わったはずです。私たちも、地域で何かイベントをするときに、住民の一人一人の心にこのことを届けたいと思って頑張っておりますが、なかなか思うようにはいきません。

お尋ねします。地域放送とは、どのようなシステムなのですか。どう考えてありますか、お尋ねします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 地域放送は地域で朝倉市が行っております、特に杷木地域の地域放送について特定していいますと、現在は市が設置する、それから戸別受信機については、市民の方々もお金を出すといったような形で取り組みをなされております。市としても、機器の整備については、その他の機器です、受信機以外については市が行ったというものでございます。

その杷木地域の運営につきましては、地元で行うというような仕組みになっております。今後につきましては。（発言する者あり）

それから、今のは杷木地域のことについて申しましたけれども、有線放送も甘木地域、それから朝倉地域もございますけれども、これも一つの地域放送だと思っております。地域の方々が運営しているということでございますけれども、その地域放送、今言いました有線放送につきましては、平成22年度ごろにかけまして、有線放送の機器が老朽化しておるということになりましたので、どうするかということで、機器の存続も含めて、それから有線放送の存続も含めまして、各地域に聞いて、今されておところは、継続したいということで、市が支援を行いまして、運営がなされておる、それらのものが地域放送というふうに思っております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） そうですね。今の朝倉市の情報手段は、市報、緊急時の防災行政

無線、屋外拡声器、地域の情報手段は有線放送、杷木の戸別無線、有線放送のない立石は、市報とともにコミュニティだよりと回覧板です。

では、もう一度お尋ねしますよ。なぜ立石地区全体として、有線放送を終了してしまったのか。平成18年、JA立石支所の閉鎖、平成23年、3,545世帯、加入数299世帯、加入率8.4%、上秋月では、71.9%、秋月では75%、安川は79.8%、馬田では57.5%、立石は急激な世帯数の増加により、有線放送の極端な加入率低下となり、地域の情報伝達の有効活用がなされなくなったためではありますが、それよりも何よりも、地域放送としての視点を持った考えがなかったように思われます。

そのため、地域全体のものとしての検討がなされず、ただただ有線放送についての検討だけだったのではなかったのですか。そして、加入率を上げるための整備には、莫大な事業費が必要となるとの考えからではなかったのかと思います。

行政は、地域放送の重要性を認識し、指導された結果が、立石のこの有線放送終了だったと思われませんか。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、旧甘木市については、旧甘木町を除いて10校区に有線放送というのがございました。恐らく私はそのとき直接タッチしたわけじゃないですけども、話を聞きますと、それぞれの校区に有線放送をどうするかという話があった。そのうちの9校区については、そのまま地域放送的な役割として残す。残念ながら、立石地区については、もう取っ払うという形になって、実は平成28年度に、送電線といいますか、あれを市と農協が、お金を出し合って、全部撤去して終わっております。

だから、言われましたように、そのときに、十分な議論があって、本当に必要であれば、例えばあそこがそうです、杷木が、杷木はオフトークという施設がありました。しかし残念ながらこれはNTTがもうサービスをやめるということで、地域にどうしますかということで、市は投げかけました。ある一定のオフトークにかわる地域放送が済んだら、ある一定のパーセンテージで加入しますということが出れば、市としてはしますよという形でやって、地域の努力もあって、最初は少なかったんですけども、パーセンテージが上がりました。

それで、市としては、そのときやったということです。ですから本来言うと、やはり有線放送が終了した時点で、そういう議論があって、どうするのかというのは、やっておかなきゃならなかったんだらうと思います。だから、そういうことで、残念ながら、今は立石地区には地域放送といわれるものがない。

ただ、これは私個人的な考えですけども、今言われたように、今の旧甘木にあります有線放送にしても、加入率はさまざまですけども、100%はないわけです、どこでも。ですから、やはりもう少し技術的な進歩があれば、今はスマートフォンで、ぱっと一遍に押したら全部つながるとか、そういう技術も進歩してます。

ですから、そういうものが技術的な進歩がもっと進めば、もっと安価で地域放送的にかわるようなものというものができんかなという、個人的にはそういった期待もしておるところであります。以上です。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 望むべくもなく、私の携帯はガラケーです。そして、それは多くの方が、多くの住民がそうだろうと思います。私はどうしても、住民の一人一人に伝達できる放送を開始してほしいと思っております。これは、大事なことです。市長、5分でやめれば、それをやってくれるのなら、私は今すぐでもやめられるのですが、この続きもさせていただきます。

市長がさっき言われたように、情報伝達の手段の調査研究が行われると聞いております。例えば先日、立石コミュニティに朝倉警察署からの緊急情報の地域住民の伝達、これです、お願いしますと言ってきましたが、回覧板と地域コミュニティの何じゃったかいな、ではどうやってすぐに知らせることができるのか、大変困っておりますし、あれはみんなしたかな、自衛官の候補生、約50人が小銃を携帯して、徒歩歩行訓練を実施しますという連絡が入ったはずです。それも地域放送のない立石としては、すぐ伝える手段はありませんでした。

どうか市長、手段、調査、研究について頑張ってもらいたいし、もうだめばい、こらっちなったら、この私の言よることをじっくり胸におさめてほしいと思います。

もう一つ、先日の商工会議所の挨拶で、総務部長は、さっきと一緒に、何より情報が大事であると言われました。そうであれば、この情報の大事さを、ふるさと課、人事秘書課、財政課、防災交通課での総合的な検討をされて、いいと思いますが、されてますでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 済みません、ちょっと質問の趣旨が、統合ですか。（「総合的に」と呼ぶ者あり）今おっしゃいました課につきましては、とにかく事業の連携というのは、非常に大事と思っておりますので、毎週1回は必ず課長が顔を合わせて事業の打ち合わせをしておるということにしておるところでございます。

情報が大事だということを伝えましたけれども、発信する側も大事ばってんか、あのときに言いましたのは、受け取る側もたくさんの情報の中から本当に必要なものを選んで取ることも大事だということで、情報につきましては、さまざまな捉え方があると思っております。

総合的にやっているかと、情報をきちんと分け合っているか、共有しているかということにつきましては、そういうふうにも努めているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 情報は住民が考えていろいろ考えてやれって言われた。でも、住

民の耳に繰り返し繰り返し伝えなければ、住民は動くことはできないと私は思っております。

森田市長、1月22日、森田市長新春の集いの折のことをちょこっと言われたことを思い出してください。こう言われました。「いつ何どきに朝倉市に自然災害をと考えておかなければならない。」言われましたね。そう考えると、これは住民に一人一人に情報を伝えるということは、朝倉市にとって、市長にとってもとても大きな政策課題であると思いますが、どう思われますか。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（森田俊介君） 私がしゃべったことですので、私のほうから答弁をさせていただきます。

そこでちょっと考えていただきたいのは、いわゆる防災無線といったようなものと地域放送といったもの、もちろんこれは一つで両方の兼ね合いはするとはいいえますけど、基本的には違ったものという捉え方をしていただきたいなと思うんです。というのは、朝倉市は、同報系の無線で防災無線がございます。これについても、雨のときは聞こえんとか、いろんな、もちろん議員の皆さん方、導入当時議論をされて、あれが一番いいということで導入されたんでしょうけれども、結果的には、そういう状況が出てまいってます。

だから、今、防災関係については、いろんなエリアメールですとか、そんなものを幾つか組み合わせて発信するというようにしております。

地域放送というものは、またちょっとこれは違まして、やはり地域の中で、そのコミュニティの活動を円滑にする、あるいは盛んにする、活発にするという一つのルール、それからいろんな情報を、先ほど言われましたように、地域の皆さんにお知らせするという役目だろうと思います。

ですから、そのときに確かにいろんな地域放送がないところについては、情報伝達も大変だろうというふうに、それはわかります。

ただ一方、あるところでも、言われたように70%か80%あるところはないと思うんです。ほとんど、要するに有線放送で、杷木地区60何%、70%、新しい、だからあとの20%、30%の方には、同じような形で情報伝達がなされておるということです。

これは、ちょっと話はそれますが、今の世の中見たら、いろいろ価値観が多様化しまして、そういうのがでんかつちゃ、俺は行かんばい、初めからそういう人も多いです。

だから、例えば集合住宅に住んでいる方なんかちゅうのは、じゃ無理やっこおまえのところ置いておけというわけにもいかん。となると、だからどういう伝達方法、もちろん行政としてはなるべく情報が伝達するように努力をしなければならんですけれども、どういう伝達方法を使ったとしても、100%はまず無理なんです。

ですから、そこらあたりからの努力と、今言われますような地域放送についての考え方というものは、十分今から検討していかなきゃならんというふうに思ってます。

ですから、さっき言いましたような、もっと安価な方法はないかなと、いろいろ考えてますけれども、そういうことですので、このあたりは御理解いただきたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） オーケーだと受けとめておきます。一番心配するのは、先日北朝鮮よりミサイルが飛んできましたよね。落ちる場所が確定できないためにJアラートは鳴りませんでした。しかし、落ちる場所が確定すれば、間に合わなかったのではないかと私は思っております。

本来であれば、北朝鮮からミサイルが飛んできました。Jアラートは鳴りませんでした。しかし、こういう理由でなりませんでした。もし鳴ったならば、このように避難してください。そういう情報提供をすべきです。それが耳にたこができるほど提供されれば、住民はJアラートが鳴った。避難しよう、体が動くはずですよ。そうでしょう。だからお願いしております。何としても、地域放送システムの中に防災の、傍受して、市民の多くの皆様に両方のことが伝わるように、何とかしていただきたいと思います。

地域防災計画の活用について、お尋ねします。

こう言われております。災害の規模が大きければ大きいほど、行政機関の初期対応は極めて困難だと、地域住民は自分の命は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守り、そのためにはどうすれば、どのような指導をする対策が必要でしょうか。自主防災のあり方について、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 自主防災のあり方ですけれども、朝倉市では市内17のコミュニティに自主防災会を設置しておるところでございます。各地区で防災活動を行っております。活動内容といたしましては、防災講演会、避難訓練、イベントにあわせた食事の炊き出し訓練、救命講習会、地域見守り支援体制講習会、体育祭等での防災協議、災害時の写真の掲示による啓発等でございます。

こういった自主防災会の行事等で活動を行っておるということでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 私が言いますのは、自主防災組織というのは、その地区その地区に応じた自主防災組織の必要ではないかということです。

みんなで話し合いました。みんなで聞きました、みんなでした、そうじゃないでしょう。地域が自分の持つてる危険箇所、地図はありますが、その把握して、うちの地域ではどうすればよいのかという防災計画を立てることが大切だと思われませんが、行政として、どのような指導をされますか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 自主防災体制は大変重要だと思っております。自主防災計画によりますと、先ほど言いました朝倉市では自主防災会と言っておりますけれども、そう

いった自主防災組織の防災計画書を作成するというふうになっております。

その中には、地域及びその周辺の危険が予想される箇所の点検だとか、地域住民の任務の分担とか、訓練への積極的な参加、それからその他負傷者の救出、搬送方法、救護所の開設に関する事、そういった計画を各自主防災会ごとにつくることが必要だと地域防災計画ではしておるところでございます。

まだまだその詳細な計画が、各防災会においてできている状況ではございませんが、目標としては、そういった計画をつくるということが目標でございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 一日も早いその防災計画とやらを、行政主導のもとでお願いいたします。地域もえらい頑張らないかんばってん。

平成24年7月に発生した九州北部豪雨では、指定避難所以外には情報が入らず困ったと、杷木の住民からお聞きしたことがあります。行政の把握がなぜできなかったのか、災害時、全ての人が避難所へ行けるとは考えられません。行くことができず孤立も考えられるのですが、どのような対応をされていますでしょうか。地域のいろんな災害の情報を、行政はどこからどのように聞いて、それを発信するのでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 今議員おっしゃいましたのは、災害時のことでございます。伝達の方法につきましては、考え方につきましては、市民に対して迅速かつ正確な広報を実施するというところでございますので、被災者の要望、苦情等の公聴を実施し、効果的な災害対策の実施。それから総合的な相談、情報提供の窓口を設置する、それは市が行うものでございますので、そういった市がやることと、それから被災者の置かれている環境等をきちんと見ながら、広報を実施していく必要があると思います。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（森田俊介君） 24年の災害時、私ずっと現地を回ってますので、よく今でも覚えてますが、確かに災害が発生した当初については、指定避難所に避難している人もありますし、市が全然指定しない、例えば地域の公民館ですとか、あるいは福祉の施設ですとか、そういったところに避難されている人もありましたので、当初はどこに避難しているかわからんところもありました。

しかし、時間がたってそれが判明いたしますと、地元からの連絡とかいろんなこちらから調査してわかりまして、その後はそこあたりもちやんと情報は、市役所の職員が行ったり連絡したりしてという形は、今覚えています。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） そのところなんですよね。例えば地域のところからで、水が上がったとか、土砂崩れがした。それは地域からの連絡で行政がわかることです。行政はすぐはわからないはずですよ。だから時間がかかる。それを聞いたかったんです。誰からどう

いうふうな情報を受けて、市が動き出すのにどれくらいかかるのだろうかと思って。そのためには、くどいようですが、地域からの情報の伝達方法も必要であるとは思っております。

何度も言うようですが、災害時、益城町では、情報を末端まで流すことができなかった。これこそ課題だと言われました。市長どうぞ、本気で地域放送システムの構築について考えてほしいと思います。

先ほど市長は考えるじゃなくて、何ち言いなつたかな、考えるにしよう、考えて、期待をいたしまして、この地域放送は次に送らせていただきます。よろしくお願いします。大体40分の予定でしたが、10分、10分はほかのことにつぎ込みたいと思いますので、これで地域放送についての質問は終わらせていただきます。

次回、もっと積極的な質問をしたいと思いますので、よくよく検討の方お願いしておきます。

次は街路樹について質問いたします。

朝倉市には、いろいろな街路樹が植えられています。ケヤキは多くて青々として夏は日陰にもなりますし、何ちゅう、車の排気ガスも防いでくれます。ケヤキに限らず、街路樹は、住民の皆様のえらいお役にたつとは思いますが、ケヤキもよけりゃ、アメリカフウもいい、あのすっと伸びた樹形はとてもきれいで、春の緑もきれい、秋のあの紅葉したすばらしさは、北の国でもなくても、こんなすばらしい紅葉が見れるのかというほどアメリカフウはきれいなものです。

しかし、ちょこっとの土に植えられて、大きくなる木は、何らかの無理があると思われる。アスファルトを持ち上げたり、虫がつくと、1本ついたかと思ったら、あっという間にわあっと虫が広がったり、その下を通るのは、毛虫の下を通るのは、とてもおぞましいものです。傘を差して歩きたいほどです。

落ち葉は、近隣の住民にとって悩みの種のようなのです。なぜ歩道に木を植えられるようになったのかをお尋ねいたします。1分で答弁をお願いします。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 街路樹の役割について御説明します。

景観形成、公害対策、交通対策、騒音防止、雨や日差しを遮り、快適な空間をつくる、またドライバーの目線の誘導など、ほかに季節感を与え、潤いと安らぎをもたらすという役割を期待して街路樹を整備しているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 私は大好きなんです、木が。ばってん今街路樹を見てると、ぶつと切られて、上のほうはもっこりして、葉っぱが4倍ぐらい大きくなって、枝が少なくなつて、下に垂れ下がっております。この剪定の仕方では、木本来の自然の姿を保つことはできません。

木はやはり光が通り、風が通り、すがすがしくなくてはなりません。今のような剪定の仕方では、甘木市がせっかく街路樹をしたのに、何なこの街路樹はというような街路樹なんです、どう思われますか。30秒で。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 今御指摘の高木の剪定については、高木の場合、道路標識や信号などが、車や人から見えないとき、あるいは電線、街路灯に当たるとき、沿線住民から苦情があるときなどに、今御指摘されました強剪定という太い枝を剪定するという方法をとった結果、そのような木が繁茂するという形になっておる状況でございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 大きい枝を切ったのではなくて、幹をぶつと切ったんです。ですね。これは汚い、木の体をなしちょらん、自然の木の形が崩れてしもうとる。これではだめです。せっかく植えられとる木ですので、管理を怠ることなく、虫がつけば消毒をすれば、ほかのところには広がりませんし、余計なお金も要らないでしょう。定期的な点検、剪定、メンテナンスをしっかりと、さっき言われた、異常や危険などの問題が生じたときは、ぶつと切る、ぶつと切った、上だけ切るんじゃないけ、別にあんた、道路障害やら何も役に立たん、電線にはひっかからんかもしれんばってんが。

ある議員から、前副議長らしく、品のある一般質問をせよと言われておりますので、心がけてはおりますが、つつい地が出てしまいますので、あしからず。

大事にしてほしいと思います。

次、落ち葉の件です、落ち葉、それから雑草、あの下、あれは住民の協力を得ることはできませんか。自分の家の前の落ち葉を掃き、雑草は取り、いつもあの街路樹がきれいに保たれるようにすることはできませんか。お尋ねします。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 今御質問のありました地域住民のボランティアによる落ち葉の清掃など、実際に街路樹の路線においては、そのような取り組みをしていただいている路線もございます。

また、花壇を設置して、そこに花を植えたりというようなエリアもございます。

希望があれば、建設課からごみ袋の提供なども、そういうエリアについては行っておるところです。

ただ、先ほどの御質問の中にありましたように、落ち葉の苦情ということでいただいているエリアもございますので、その苦情に対する対応も、そのような地域ボランティアの御理解を得ながら、ふやしていくことで、落ち葉に対する苦情も減ってくるかと思っております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） これはアメリカフウの落ち葉の状況です。あれはありません。ケ

ヤキは。でも平成27年12月1日、改善提案書が出ております。ケヤキの下にトン袋など、大きく住民の皆様が毎日掃いて入れられる袋の設置をしていただけませんか。そしてその袋の搬出をしていただけませんかという改善提案書は御存じでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 私はその改善提案書については存じておりませんが、現在はごみ袋の配付というようなことは行っているということで確認しておるところでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） あの小さなごみ袋では、入れても入れてもたくさん要ります。特にうちの庭は1回こう掃除すると、20ほどのごみ袋が要ります。御存じですか。ぎゅぎゅっと押し込んでも要ります。私たちが要望しているのはトン袋です。トン袋を木の下に何方所か設地しておけば、住民は毎日掃除をしながら、そのトン袋の中に落ち葉を入れると。そしてその撤去を考える。その回答は、今後は落ち葉も含めて、街路樹の対応を考えていく必要があると考えております。地域の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたしますという回答でございました。トン袋は設置しないということです。

でも、どうすれば住民の皆さんが気軽にあそこを掃除することができるか、葉っぱが散れば、濡れば滑ります。とても危ないものだと思いますので、要はあなたたちの行政の皆さんの思いが強ければ、住民もそれに答えます。頑張ってください。よろしいでしょうか。どう。よろしい。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） お約束ではないですが、最善な方法を今後も検討したいと思えますし、そのことについては、地域住民の皆様との協力も図りたいと考えております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） そのような折には、私もいつもの汚いジャージを着て、帽子をかぶってほうきを持って手伝いに行きますので、どうぞ職員の方もよろしくお願いいたします。

次、IT教育について質問いたします。IT教育は2020年小学校でプログラミング教育の必修化を検討すると発表されましたが、これについての教育委員会、学校長の方針をお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 今議員おっしゃいましたように、2020年度から小学校でのプログラミング教育の必修化というのが出ております。このプログラミング教育と申しますのは、今中学校では家庭情報科の中で、情報での勉強をしておりますし、高校では選択ではありますが情報科ということで、ここあたりは具体的なプロの言語を使って授業をやる

ということで、小学校の場合は特別に科目をつくるということではなくて、いわゆるこれから少子高齢化の中にあって、50年後は600人ほど生産労働人口が減るとかいう試算もある中で、これまでの日本の国の国力を維持発展をさせていくためには、A I とかロボット、こういうものを上手に活用していく必要があるということで、そういったA I、ロボットを上手に活用していく社会をつくるために、このプログラミング教育をやっていくということが基本的な考え方でございまして、小学校においても、そういったロボットとかA I が一つの指示の言語のもとに動いているというような体験をさせるということになりますから、具体的には例えば音楽の教科のときに、今は作曲というものもコンピューターで音符を置いて作曲ができるとかいう体験をすることもできますし、ワープロで文を打つとかあるいはいろんな絵を描くときにもそういったソフトで描くとかいうことで、さまざまな教科の中に、そういったプログラムでものごとが動いているというものを学習させて、小学校、高校につなげていくということが基本的な考え方だと認識しておりまして、これは非常に大事なことで、精力的にいろんな研修を図っていく必要があろうというふうに思っています。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 6月11日の西日本新聞です。見られましたよね。これは、I T教育、久留米の附属小学校で低学年向けに自作した升目ゲーム、紙と鉛筆だけを使い、プログラミングに求められる思考力を育成しようと考案されたそうです。どう思われましたか。読まれたんですね。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 6月11日も出てますし、その1週間前も実はプログラミング教育ということで出ておりますので、両方とも読んでおります。ここの中、学校現場の状況をお話をさせていただきますと、今度新しい新学習要領の中で、英語を重視しようとか、道徳を重視しようということがありますので、それにプログラミング教育というものをいきなり同じような形でおろしますと、非常に負担感があるんですが、実際はプログラミング教育は先ほど申しましたように、小学校で特別な教科をつくるわけではありませんので、今やっているいろんな国語とか算数とか、そういう中で、論理的に考えることを、この視点からどういうふうな学習のスタイルをつくろうかということでもありますから、またそういったものが試行錯誤の段階であろうと認識しています。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 英語教育の話が出ました。英語教育は2020年、小学3年生から必修化、5年生から教科化になると聞いております。幼いころから英語に接することがなぜ大事だと思われませんか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 英語が世界の共通語ということで、これから日本だけではな

くて、世界に打って出るいろんな大人を、社会人をつくっていくことについては、必須であるということで大事だろうと思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） そうなんですよ。グローバル化、グローバル化が英語を必要としました。朝倉市の子どもたちが、外に出ていくとき、英語が話せなくては、仕事にならないでしょう。しかし、それはIT教育とともに必要になると思われます。

なぜかといえば、朝倉市にはおいしいトマトがたくさんできます。おいしい卵があるのは御存じですか。おいしい卵もあります。これが世界中に知られたら、日本中に知られたら、柴山恭子ちゃん、おたくのおいしいトマトを出していただけますか。おたくのおいしい卵はケーキづくりに最適です。出していただけますか。と言われたときに、できますでしょうか。電話では来ないと思います。

なぜそんなことを言うかという、私はパソコンが全くできませんでした。全くですよ。スイッチの入れ方もわからなかった。第一必要ないと思っと思った。手書きをすればいいじゃないか。手書きの何が悪い、ちょっとは下手くそな字なんだけど、自分になら読めるし、一般質問も手書き、パソコンの必要は全然ないと思っておりました。

しかし、議会報告会があるようになりました。そのとき、資料づくりにパワーポイントを使うということになりました。私はスイッチさえわからない人です。この私がよ、どうやってパワーポイントをつくるんですか、それはパソコン教室に通わなしょうがないでしょう。毎日毎日1日3時間ほど、高いお金を出してパソコン教室に通いますよ。それでも大したことはない。

だから、小さいころから、英語教育もIT教育もする必要がある。これから、社会人になって、外に仕事を出たときに、これが子どもたちの力になる。教育長はいつも、子どもは家庭のお母さんの力で大きくなる。道徳も全部お母さんの思いが子どもにつながるとおっしゃってますよね。大事なことです。

しかし、これからの子どもはやはり英語教育もIT教育も必要になると思われますので、どうか力を入れてほしい。そりゃ、何ちゅう、どこじゃった、附属小学校のように、自分たちで何かをつくってするちゅうことはできないかもしれないけれど、何とかしてうちの市は教育委員会が熱いちゃんね、うちの市で教育を受けさせたいちゃんね、そういう市民がふえるように、頑張っていってほしいと思います。

それでなくては、朝倉市の子どもたちは成長しません。ただ単に難しいとかこれとこれをしたから次これもするとは大変だとか、そういうことではないです。これとこれをして、やっとなつのものになるちゅうことがありますので、どうか教育委員会としては、頑張てほしい。そしてその熱い思いこそが、朝倉市に住む子どもたちを思っている父親や母親の心を揺さぶると思いますので、どうぞよろしくお願いします。残りの時間、全部答弁に使ってください。3分43秒です。

○議長（中島秀樹君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 今から先の世の中は、大いになると言われています。鉄とコンクリートの社会で過ごしてきた大人の発想で、今の子どもさんたちが生き抜くときの社会は違うので、自分たちの大人の発想でない新しい発想をもって取り組まなければいけないということを最近言われています。

その中の一つがこのIT教育だと思ってます。IT教育については、私は堪能ではありませんので、中身はよくわかりません、残念ながら。

しかし、各学校にパソコン教室をつくっていただいております。これを常時動いているかという、動いておりません。これを活用する必要があると思ってます。

今から話しますのは、ITが弱い人間がどんなことを考えてIT教育を進めようとしているかをちょっと聞いてください。専門的な話は、いつかの機会に参事、参事補佐が説明することになると思います。

私は、自動車が入ってきた時代と同じになるだろうと思っています。人馬でものを運んだりいろいろしてきておりましたが、鉄道で輸送していたのがトラック輸送に変わりました。そしてバイクとか自分で移動ができるようになって、それも自動車に変わりました。自動車が変わって、いろんなことが世の中が変わってきたと思ってます。輸送の仕方が変わりました。発想が変わりました。今回のパソコンが入ってくるということは、大いになると変わっていくんだろうと思います。

自動車社会になったときに、どんなふうにしたかといいますと、自分もいつか自動車を買って乗りたいと考えました。

それで、職について、どうにか買えるようになりましたので、免許を取ることにしました。免許を取るためには、自動車の構造を理解しないと合格しません。それから、運転技術を身につけないと通りません。それと、運転のマナー、ルール、法規を理解しないと通りません。この3つは必須条件でございますので、それを自動車学校に行って一生懸命に学びました。

その中で、今考えていますのは、そのとき、身につけて合格したもので、今も続けて生きているのは何か、運転技術と法令です。構造、全く覚えておりません。トーインとか習ったなとか、内輪差があるとか、そういうことは習ったなというのは思い出しますけれども、そういうのを知らないで乗れるようになりました。

法令を守れば安全に乗ることができます。ハンドル、ブレーキ、アクセルを正しく操作されればいいです。今の車の使い方は、ガソリンを入れ、オイルを入れ、雨が降った後は洗車する、そういう単純なことで、車を活用できるようになりました。

でも、これからの社会で仕事がずっと変わっていくときに、考えなければいけないのは、自動車が入ってきたときに、この自動車をどのように活用するかということで、いろいろ工夫されて。（発言する者あり）

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員の質問は終わりました。10分間休憩いたします。
午後3時10分休憩